

世界的に活躍するギタリスト 大萩康司さんにふるさと大使を委嘱

8月11日、小林市出身のクラシックギタリスト大萩康司さんに「こばやしふるさと大使」を委嘱しました。大萩さんは小林高校卒業後にパリ国立高等音楽院などでギターを学び、デビュー後は国内だけでなく世界各国でも精力的に活動。当日は感染症対策を行ったうえで凱旋リサイタルも開かれ、約150人の聴衆を魅了しました。



大萩さんは「大きな役割をいただき光栄です。自分ひとりでは探しきれない小林の素晴らしさを、皆さんと一緒に探していきたい」とあいさつしました

自己ベストで頑張りたいと意気込む

8月11日、小林ジュニアアスリートクラブの富満丈積さん（小林小6年）が、陸上競技県大会の優勝と9月に開催される全国小学生陸上競技交流大会出場を市長に報告しました。富満さんは「コンバインドA(800mハードル・走り高跳び)」に出場します。



東京五輪に日本代表コーチとして出場

8月16日、東京オリンピック男子ハンドボール日本代表のコーチを務めた北林健治さん（本市在住）が宮原市長を表敬訪問。オリンピックでの活動など報告したほか、市内に掲揚した応援の横断幕により多くの人から激励をもらい力になったことも話しました。



九州大会・全国大会に出場する部が県代表を誇りに活躍を誓う

県中学校総合体育大会を勝ち抜き、九州大会や全国大会に出場を決めた各部が市長を表敬訪問。県大会の報告と上位大会の意気込みを話し、宮原市長と中屋敷教育長が激励しました。



三松中陸上部、女子ハンドボール部



小林中男子ハンドボール部



小林中新体操部



小林中陸上部、テニス部、柔道部

- 【団体競技】
- ・三松中女子ハンドボール部
 - ・小林中男子ハンドボール部
 - ・小林中新体操部
 - ・小林中テニス部
- 【個人競技】（学年／出場種目）
- ・三松中陸上部
池田 芽生さん
（1年／1年女子800m）
 - ・小林中陸上部
下湯 章太郎さん
（3年／共通男子棒高跳び）
 - ・小林中陸上部
鶴 優希さん
（2年／2年男子1500m）
 - ・田畑 李莉さん
（2年／低学年女子80mハードル）
 - ・小林中柔道部
平野 遼さん
（3年／57kg級）
 - ・山口 かななさん
（1年／40kg級）



加藤九段との指導対局に参加した小学2年の西田春斗さんは「(加藤九段は)指すのが早くて強かった。作戦を立てて、次は勝ちたい」と話していました

伝統文化「将棋」に親しむ 将棋チャレンジフェスティバル開催

7月25日、「国民文化祭・みやざき2020」「全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」の一環で、「将棋チャレンジフェスティバル」が文化会館で開催されました。講演会では「将棋界のレジェンド」加藤一二三九段が登場し、藤井聡太二冠とのエピソードなどを披露。講演会後は、加藤九段や現役プロ棋士による指導対局などが行われました。

平和な毎日を守っていくことを誓う

8月6日、西小林小学校で戦災慰霊集會が行われました。昭和20年8月10日、太平洋戦争時の空襲で犠牲となった10人の児童に対して、同校を代表して平田亜衣さん（6年）が祈りの言葉を述べ、献花を行いました。



格闘家寺田 匠さんがプロ3勝目を報告

8月6日、小林市出身のK-1ファイターでこばやしPR大使を務める寺田匠さんが、宮原市長を表敬訪問しました。寺田さんは、7月17日に福岡県で行われたプロ3戦目の試合での勝利を市長に報告。年内には、プロ4戦目に挑む予定です。



車内の空間除菌などの機能を完備したコミュニティバス2台を導入

7月30日、グリーンシティこばやし(株)からの寄附で購入した、コミュニティバス2台の運行開始を記念して寄贈式が行われました。式には同社前田喜輝社長と宮原市長、バス運行事業者の宮崎交通(株)小林営業所 上田勝士所長が出席。目録の寄贈が行われました。また、中央保育所の園児も参加し踊りを披露、式に華をそえました。



前田社長(写真最後列左)はあいさつで「今後安全に運行され、多くの市民のみなさまの生活のために活用されると嬉しいです」と話しました

魅力ある授業づくりを先生が学ぶ

7月26日、ICT機器を活用した学習指導を学び、授業力の向上を目的とした研修会が東方小・中学校で開催されました。研修会には市内小・中学校の教員111人が参加。タブレットPCの機能活用やトラブル解決法などを、実際に操作しながら学びました。



商品の味を伝えるデザインを考える

7月19日、東方小学校で特産品PRの特別授業が行われました。講師は市内で農産物の生産・加工・販売を行う(有)すき特産の平川悠さん。授業では、特産品の製造工程などを学んだ後、同社の製品「ゆずピール」のパッケージデザインをしました。



AIなどを使って地域課題の解決へ 2つのプロジェクトが始動

6月28日、市と東京大学先端科学技術研究センター（東大先端研）は、「連携と協力に関する協定」を締結しました。この協定は、小林市が抱える地域課題などを東大先端研が持つ技術や知見を活用して解決することなどを目的とした協定です。

この協定に基づき、8月に2つのプロジェクトが始動しました。

若手職員が小林の未来を創造

8月6日、入庁3・4年目と若手有志職員による研修チームの第1回の研修が行われました。

このプロジェクトでは、36人の研修生が6人ずつ6チームに分かれ、地域の課題解決や小林の明るい未来につながるアイデアを出し合います。

令和4年度に実証実験に向けて東大先端研や関係者との調整を行い、令和5年度から実証実験を行うことを目指します。



▲8月6日に行われた第1回目の研修とフィールドワークの様子

中堅職員が小林の抱える課題を解決

8月18日、市役所内のさまざまな部署に所属する30代～40代の中堅職員をメンバーとして、プロジェクトチームが発足しました。

このプロジェクトでは、4人ごとに「健康・福祉」、「人材育成」、「産業振興」、「まちづくり」のグループに分かれ、これまでの業務で感じた課題などの解決を目指します。早ければ、令和3年度中には東大先端研と連携して実証実験を始める予定です。



▲8月18日に行われたプロジェクトチーム会議の様子



市独自の道徳資料に高校生が挿絵

市教育委員会はワクチン接種を原因としたいじめを防止するため、市内教員手作りの道徳資料を作成しました。



また、資料には小林高校美術部3年のアニス敦姫さんと宮本莉帆さんが挿絵を描き、8月18日に絵が披露されました。

在宅高齢者訪問等調査員委嘱式

7月21日、野尻庁舎で在宅高齢者訪問等調査員の委嘱状交付式が行われ、地域で介護予防などの活動に取り組む8人が調査員に委嘱されました。



今後、在宅の高齢者を訪問し、健康維持や必要な支援につなげるための調査を行います。

倉岡カルロス隊員と倉岡あゆみ隊員 地域おこし協力隊の活動成果を報告

8月18日、地域おこし協力隊の倉岡ジョン・カルロス博隊員と倉岡あゆみ隊員が、3年間の活動の成果を報告しました。カルロス隊員は、ブラジリアン柔術教室の開催や自然体験ツアー開催に向けて狩猟免許などを取得。あゆみ隊員は、ブラジリアン柔術を広めるイベントの企画や柔術の指導、語学を活かした活動などを行ってきました。



両隊員は小林に定住し、カルチャースクールを兼ねたブラジリアン柔術道場を開講予定。スポーツと農を活かして、関係人口の創出も目指します

東京大学の先生方からの激励メッセージ



東京大学
次世代知能科学研究センター
まつばらひとし
松原 仁 教授（人工知能研究）

我々の分野の先輩である金出武雄さんの言葉に、「素人のように考え、玄人として実行する」という言葉があります。

行政でも、法律や予算の壁があって新しいことができないと思いがちだと思います。しかし、未来を考えると、まずは素人のような発想で考え、実行するときには行政の玄人として実行できる方法を考えていただければと思います。

これからよろしくお祈りします。



東京大学
先端科学技術研究センター
まきはらいづる
牧原 出 教授（行政学・政治学）

今、地方自治体のデジタル化が大きなテーマになっています。

これを進めるためには、個々の職員の方が「情報システム」って何なんだと、感度を持っていただく必要があります。

今の大学生は4年生と1年生で世代が違うくらいデジタル化が進行中で、意識も変わってきている。そういう変化にも関心を寄せながら、行政や地方のあり方を考えていただければと思います。

一緒にがんばりましょう。



東京大学
先端科学技術研究センター
いなみまさひこ
稲見 昌彦 教授（身体情報学）

デジタルトランスフォーメーション（DX）という言葉が流行っています。ただ、「今行っている作業をコンピューターでやりました」は単なるデジタル改善で、DXとは「そもそも何のためにデジタル化するのか」という根本まで立ち返って考えていくものです。

今、全国の自治体が小林の取り組みに注目しはじめています。地域のDXの先駆けだと5年10年先に言われるように、我々も一緒になって進めることができると嬉しいです。

親子で陶芸に挑戦

8月6日、紙屋保育園で陶芸教室が開催されました。20年以上続く同園の恒例行事で、地元の陶芸家園田貞哉さんの指導を受けながら、年長組の親子が協力して作品づくりに取り組みました。



できあがった作品は、10月の小林市総合文化祭に出品されます。

真夏の夜のイルミネーション

8月11日～21日の11日間、栗須公民館が野尻町いきいきコミュニティセンター周辺をイルミネーションで装飾しました。



栗須公民館の設立40周年記念と、栗須夏祭りが2年連続で中止になったことをうけて、地域を元気づけようと企画・装飾されました。

世界でたった一つ オリジナルデザインの食器を製作

8月2日、須木総合ふるさとセンターで、すき学園学習会ポーセラーツ教室が開講されました。ポーセラーツとは食器に絵や模様を転写するクラフトワークで、講師に細山田久美子さんを招きました。参加者14人は完成後の使用を楽しみしながら、白い食器をキャンパスにお気に入りのデザインを絵付けしていました。



講座後に焼成を終えて完成した食器。参加者はオリジナル食器を前にして「大切に使っていきたい」と話していました